

時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞

送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚ニ錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓

一箇年前金六圓

○時事新報社ヲ直接ニ郵便ニテ郵送スルモノニ限り本文定價ノ外ニ

箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ケ
時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字點	一日張	二日以上	六日迄	七日以上	十六日以上
自一行至三行	十	錢八	錢七	錢六	錢八甲
自十一行至卅行	九	錢七	錢六	錢五	錢四五毛五錢五毛五厘
三十一行以上	八	錢六	錢五	錢四五毛五錢五毛五厘	

時事新報

露國東洋政策の近狀（前號の續文）

露國の東洋政策と實施するに於て今の浦鹽斯德港を其の中心と爲すの考なると論を俟たずと雖も同港の地勢は恰も其位置を長三角形の頂點に占めたる者にして一方の側面よりは絶えず敵の進撃を蒙るの恐なきに非ず即ち支那滿州と土地相接するが故に背後より其要害を衝かるゝ時は浦鹽斯德はサイベリヤ本州との聯絡を断られ孤軍、圍城の中に陥るの掛念はあり特に支那政府に於ては近年頻りに滿州地方の殖民開拓を事と見て此の如く露國サイベリヤの鐵道は東洋政策の上に於てさるの有様ありと云へば一旦事あるの日に吉林地方より突然兵を露頭にして浦鹽斯德と根據として支那滿州の領地を侵す能はざるは勿論、寧ろ支那の侵掠に抗起工を急がざる可らざる者あり

して自家防禦の策を講ずるに汲々遑あらざるの次第

遼京、吉林の二省を置き兵備の規律整然容易に侮る可

らざるの有様ありと云へば一旦事あるの日に吉林地方

より突然兵を露頭にして浦鹽斯德と根據として支那滿

州の領地を侵す能はざるは勿論、寧ろ支那の侵掠に抗

起工を急がざる可らざる者あり

右の如く露國サイベリヤの鐵道は東洋政策の上に於て

一日も起工を忽がせに爲を可ふざる者にして其謙唯單

に中央政府の意見なりと云ふに止まらず既に本年十月

十三日の事ありとか二十名の鐵道技師はオデサ港より

浦鹽斯德に上陸し直に工事に着手するの都

一日も起工を忽がせに爲を可ふざる者にして其謙唯單

に中央